

## 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪府立 八幡屋小学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

本年度の八幡屋小学校の自己評価結果は、目標値に届かないところもあったが大阪市の平均は概ね超えることができた。目標値は昨年度の結果より0.1Pでも大きく設定することで頑張ってきた。結果として目標値を超えることは叶わなかったが、いずれも高い数値を出すことはできた。課題を児童の実態に合わせ、取組を工夫してきた結果である。取組内容について、指標を基に成果測定・評価・振り返りを行い、その他資料等でも総合的に判断することができた。保護者・児童の学校アンケートの結果資料にも、学校が子どもたち一人ひとりをきめ細かく指導・支援した結果が表れている。子どもたちの主体性を育みながら、自己肯定感や学力を高めてきた。保護者や地域の理解と協力を得ながら連携を深めることで、教職員が一体となって目標に向け学校運営が行ってきた。

## 2 年度目標ごとの評価

## 年度目標：①【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を94%以上にする。

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を100%にする。

○達成状況としては未達が多いが大阪市の平均は超えている。

○「学校の教育活動のアンケート」保護者アンケート及び児童アンケートの結果資料から、子どもたちが安心して安全に、きまりを守り、学校生活を楽しみながら送っていることを読み取ることができた。

○児童アンケートの結果では、自己肯定感について高まりが見られ、ほぼ9割に近い児童が自己肯定感をもち生活できている。取り組みの中で子どもたちが褒められ認められる場面が多く設定されることにより、達成感・自己肯定感を味わうことができていることがわかった。特色の一つである縦割り活動を通して、他学年との交流を深める中で、高学年、特に6年生はリーダーシップを発揮し、低学年は安心して学校生活を送る様子がよく分かった。

また、放課後学習や小体連などの放課後の取り組みでも、「できた。」を大切にしてきたことが児童の自己肯定感をあげられた要因だと考える。

○保護者アンケートでは、学校の取組の成果について肯定的に答える保護者の割合が高い。「学校は、教育活動の様子を学年だより・学校だより・ホームページ等でわかりやすく伝えている。」の肯定的な答えの割合は93%あり、学校だよりや保護者メール「ミマモルメ」、学校ホームページで子どもたちの近況、学校生活の様子、学校の取組について情報が発信され、学校現場の近況を知ることができているのが分かった。今後も、学校と保護者 PTA、地域が工夫しながら連携して、子どもたちを温かく見守り協力していきたい。

年度目標：②【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1ポイント 向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上 にする。
- 小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上 にする。

- 算数科の研究4年目、今年度の研究主題は『確かな基礎・基本の学力に基づく「学びに向かう力」を高める指導法の工夫 ～子どもの「わかった」「できた」を実感させる授業づくり～』として、研究を進め、これまでの取組が徐々に定着し、子どもの学力向上につながっていることが、調査結果にも表れていることが分かる。
- 少人数指導、放課後指導により、基礎的な学力の定着が図られていることが分かった。5分間の読解力アップのドリルの活用や、「きらめきアタック」という文章問題の取り組みも基礎定着の力となっている。今後も十分な準備と計画を行い、子どもたちの意欲を高めることのできる取組を続け、結果に結び付けていく。
- アンケート等の結果から、「いろいろな機会を通して運動し、楽しいと思える子どもが増えていること」が取組を進めた成果として体力向上に結び付いていることがわかった。小体連などの取り組みも子どもの体力運動能力向上の一躍を担っている。
- 「早寝早起き」や「朝ご飯を毎日食べる」のアンケート結果から、地域の家庭環境についても様子や課題を知ることができた。早寝早起き、朝ごはんの習慣が定着するよう啓発していく。

年度目標：③【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上 にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を 80%以上 にする。

- すべての取組で目標を上回って達成できている。
- これから生きる子どもたちにとっての必須ツールである ICT 情報端末の活用は充実し、成果をあげることができていることが分かった。今後は全国学力テスト等が CBT になることからタイピング技術も向上できるような取り組みも行う。
- 今年度は大きく働き方改革が進められた。時間外勤務時間も軽減されているようだ。学校行事等の弾力的な運用について賛同する。一方で、残業が是正されていない部分もあるのでそこも進めていきたい。
- 今後も ICT の効果的な活用を図り、同時に働き方改革も進めながら必要な支援を続けていく。
- 学校図書館の環境整備・充実、8年ぶりの絵本広場の取り組み、紙いばいの読み聞かせの取り組みなど図書にかかわる取り組みを今後推進していく。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

- 八幡屋小、池島小、港晴小の3校合併を迎える今後を見据え、工事日程の関係や、近隣の小学校との取り組みもあわせていくことを地域の方々に協力をお願いして承認を得た。
- 学習面や家庭学習の実態、体力・運動能力の向上、多文化共生の状況も各家庭の生活習慣の状況を踏まえ、今後も必要な支援を続けてほしいとの意見があった。
- 少人数のメリットを生かして今後も細やかに特色のある教育活動を展開してほしい。これからも、体験的な活動や子どもが想像力を生かせるような取組を大切にしてほしい。
- 基礎となる体力づくりを重視し、授業だけではなく、休み時間の遊び方、遊具の整備等、子どもたちの体力・運動能力を高める工夫を今後も推進してほしい。
- 学校協議会委員は、今後も学校を支援していく。学校・保護者・地域が一体となる取組を、今後も維持して行ってほしい。
- 令和8年度から自転車の法改正も始まる。安全・安心な地域を目指すためにも自転車の乗り方や、遊び方を考えてほしいとの意見もあった。
- 最近のスマホ事情やSNSの使い方、ふれあい交流会での子どもたちや保護者の様子について話あった。今後も学校や役所、地域は連携して協力を進めていく。